

授業科目名	幼児と環境	教員名	満行 知花	免許・資格との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	選択
科目番号	FOI106	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	選択必修
単位数	1単位				幼保コース	必修
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項					
一般目標	保育内容の領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。					
到達目標	<p>(1) 幼児を取り巻く環境</p> <p>① 幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。</p> <p>② 幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）を用いて説明できる。</p> <p>③ 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。</p> <p>(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達</p> <p>① 乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。</p> <p>② 乳幼児の科学的現象、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。</p> <p>③ 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味関心、理解の発達を説明できる。</p> <p>(3) 幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達</p> <p>① 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。</p> <p>② 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。</p>					
授業の概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指す領域である。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身に付けていくことができる環境を構成する上で必要な専門的知識・技能を身につける。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解を深めるとともに、他領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係を知る。幼児と環境の関わりと、それらの幼児の育ちにとっての意義を、発達心理学の観点から理解する。幼児をとりまく環境として、自然環境、植物、動物（昆虫を含む）、標識・文字、情報・施設、数量・図形等についての専門的知識を習得し、幼児のそれらに対する興味関心・理解の発達について学びを深める。アクティブラーニングとして、保育活動・遊びの体験・考案、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回 幼児を取り巻く環境、保育内容の領域「環境」の目標と内容</p> <p>幼児をとりまく環境の諸側面（物的環境、人的環境、自然環境等）とそれらが子どもの発達に与える影響についてグループワークを行う。領域「環境」の目標にある好奇心と探究心の発達の過程について学ぶ。好奇心と探究心を育てる保育実践として科学あそびを体験する。（目標(1)①②，目標(2)①）</p>					

	<p>第2回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び① 植物との関わり 幼児の植物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。大学構内でフィールドワークを行い、身近な植物を用いたあそび（草相撲、草笛など）を体験する。（目標(1)③，目標(2)③）</p> <p>第3回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び② 昆虫・小動物との関わり 幼児の昆虫・小動物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。昆虫・小動物に対する擬人的思考の意義と、擬人的思考から科学的思考へ発展させるための支援方法を考察する。（目標(1)②，目標(2)①③）</p> <p>第4回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び③ 昆虫の採集と飼育 大学構内で昆虫採集を行う。自らの体験をもとにして、昆虫採集を通しての幼児の発達を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の観点から考察する。採集した昆虫が生活できる環境を構成し、グループで昆虫を1週間飼育する。（目標(1)②，目標(2)①③）</p> <p>第5回 幼児の自然・生物概念の発達と遊び④ 昆虫の飼育を題材とした絵本づくり 昆虫の飼育体験で学んだことを題材として絵本づくりを行う。（目標(2)③，目標(3)①）</p> <p>第6回 幼児の数量・図形概念の発達と遊び 野菜のスタンプづくり 幼児の数量・図形に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。保育教材に見られる数量・図形概念を分析し、小学校算数との接続を意識した効果的な指導法を考察する。図形に対する興味関心を育てる保育実践として、野菜を用いてスタンプづくりを体験する。（目標(2)①②）</p> <p>第7回 幼児の標識・文字への興味関心と遊び 身近な環境の地図づくり 幼児の標識・文字に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。宮崎神宮を訪問し、幼児が出会う標識や文字情報を分析する。グループで宮崎神宮内を探検し、幼児に出会ってほしい環境をまとめた地図作りを行う。（目標(2)③，目標(3)①②）</p> <p>第8回 幼児の社会との関わりと遊び 博物館実習 幼児の生活に関係の深い施設について学ぶ。宮崎県立博物館を訪問し、乳幼児と訪問した際にできる体験について考察する。（目標(1)③，目標(3)①②）</p> <p>第7回、第8回については、学外でフィールドワークを行う。</p> <p>期末試験：試験期間中に実施 期末試験は教科書・プリント持ち込み「不可」とする。 基本的な知識問題と論述問題を中心とする。</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>毎回のレポートの内容30%、プレゼンテーションへの取り組み20%、期末試験の成績50%で評価する。なお、提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・レポートに質問コーナーを設ける。レポートの答案例や質問に対する回答は授業で取り上げる。</p>
<p>時間外の学習 について</p>	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。） 事前学習：毎回授業後に次回の授業につながる課題を課す。課題について十分に調べ、また考察すること。 事後学習：体験活動を子どもの育ちと関連付けるレポート課題を毎回課す。授業内容を振り返り、十分な考察を行うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。授業ごとに資料、ワークシートを配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>・田宮「体験する 調べる 考える 領域『環境』」萌文書林</p>

<p>参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高山「環境構成の理論と実践」エイゼル研究所 ・高山「保育内容5領域の展開 保育の専門性に基づいて」郁洋舎 ・ハーレン・リプキン「8歳までに経験しておきたい科学」北大路書房 ・大豆生田ら「子どもと自然：あそびが学びとなる子ども主体の保育実践」学研 ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 ・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館 ・各種の昆虫・植物図鑑や絵本など（図書館、担当教員の研究室にて閲覧可能）
<p>担当者からのメッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の領域「環境」の観点から環境を構成し、幼児の発達を適切に支援するためには、動植物や自然現象、社会、数や文字などに対する基本的な知識と、身近な環境を感じ取る豊かな感性、そして子どもの発達に対する理解が必要です。この講義では、学生のみなさんが実際に遊びを体験する機会を豊富に用意します。積極的に参加し、楽しみながら知識を取得すると共に、自分の感性を育てていくように心がけてください。 ・フィールドワークの際には、汚れても構わない服装・靴を身に着けてください。一部の授業回は天候に左右されるため、授業の順番が前後することがあります。次の回の授業内容は、天気予報を踏まえて、前日にメールでお知らせいたします。
<p>オフィスアワー</p>	<p>随時訪問を受け付けます。できるだけ事前にメールでアポイントメントをとってください。</p>